

記載例（子ども食堂 拡充枠）

様式第1号の2（第7条関係）

事業計画書

団体（又は個人）の名称	〇〇食堂実行委員会	主催団体名を記載。
代 表 者 名	別紙同様	子ども食堂 運営補助枠も申請している場合、別紙同様と記載してください。
設立時期・活動始期	別紙同様	
会 員 数	別紙同様	
申請事業名（仮称可）	〇〇〇〇応援プロジェクト	
活 動 目 的	別紙同様	
活 動 内 容	子どもが地域の高齢者と交流しながら簡単な料理を一緒に作り、食卓を囲むことで、子どもの孤食や居場所づくりに取り組んでいる。また、それに加え、学びの支援（例1～4参照）を行う。 （例1）学生ボランティアを募り、子どもたちへ宿題の支援を行う。また、高校生や大学生と話をすることで、進学への具体像を描いてもらい、学習意欲の向上に繋げる。 （例2）学生や地元有志によるサッカー教室等のスポーツ教室や、スポーツ大会を開催する。 （例3）子どもたちが夢や希望を持って成長していけるように多彩な職業の方（保育士、新聞記者、消防士等）を講師として招き、キャリアスクールを実施する。 （例4）留学生等に、自国の言葉、文化を話してもらい交流会、自国の料理を披露してもらい料理教室を実施する。多文化共生の促進を図る。 ・子ども食堂としての活動内容 （運営補助枠の計画書を提出する場合、省略可） ・どのような学びの支援（学習支援、スポーツ、芸術活動、キャリア教育、グローバル・多文化教育、等）を行うか記入。	
助成を受けたい活動内容とその理由	（例1）上記の学習支援を行うにあたり、電気スタンドやホワイトボード、参考書の購入に使用したい。 （例2）上記のスポーツ活動をするにあたり、サッカーボールや、ビブス、用具収納用品等の購入に使用したい。 （例3）キャリアスクール実施にあたり、職業を学べる書籍や教材	

	の購入に使用したい。 (例 4) 多文化理解のための書籍や教材の購入に使用したい。
主 な 活 動 場 所	〇〇公民館（熊本市〇〇区〇〇）
主 な 参 加 者 層	小学生、中学生
広 報 ・ 周 知 方 法	新規企画であるため、Facebook やInstagram等の SNS での広報にも力を入れる。
開 催 回 数 ・ 頻 度	子ども食堂は毎月第3土曜日11時～14時に開催しているが、本事業は、奇数月の第3土曜日14時～16時に開催する。
活 動 の 継 続 性	助成金を活用して、備品を購入し、今後も本事業を定期的に行うことができるようにする。次年度開催へ繋がるよう参加者や協力者を一定数集める。 資金、スタッフ、利用者の確保、自己収入の増加、他団体との連携体制等、一定の計画性があることを記入。
今 後 の 活 動 の 展 開	開催にあたり、大学生や地域の〇〇団体に、運営サポートを依頼している。地域の多様な主体と連携し、地域コミュニティの活性化にも繋げていく。 事業の広域化や支援内容の充実（活動規模、利用者のニーズを受けての変更点、）を図るための計画、数年後の事業展開の構想を記入。
関 係 団 体 や 機 関 等 と の 連 携 体 制	〇〇大学や〇〇高校の教員及び学生、〇〇スポーツチーム 提携団体、ボランティア団体、地域コミュニティ、行政等、連携を（予定）している連携先を記入。
活 動 の 独 自 性 ・ 先 進 性	地域の学生や学習指導経験者等に協力を得て、塾に通えない子どもや、自宅で勉強に取り組めない子どもたちに学習の機会をつくる。
模 範 的 な 取 組	児童福祉を専門とする〇〇大学の〇〇研究室と協働し、取り組む。学生と接する機会を作ることで、学習意欲が向上したり、将来の目標を持ったりする子どもを増やす。
見 込 ま れ る 効 果	・ 子どもの参加延べ人数 〇名 ・ 将来の目標（進学や職業等）を持てた子ども 〇名 ・ ボランティアの参加人数 〇名 ・ 子ども達の学習意欲の向上、自己肯定感の向上を目指す。

	・ボランティアは、できるだけ近隣から募り、子どもたちを地域全体で見守る意識を醸成する。 事業実施を通して見込まれる効果を数値や文章で記入。 実績報告時に、結果を成果として記載していただきます。
参 加 費 ・ 会 費	参加費 5 0 円。会費無料。
衛 生 管 理 体 制 ※第 2 条 1 項 6 号の活動 に対し、助成を受けよう とする場合のみ記入	記載不要
当該助成金の助成回数	0 回（運営補助枠の助成回数を除く）
他 の 助 成 金 等	無し ・ 有り（ ○○助成金 ）

民間の助成金等を受けている場合、その名称を記入。
同事業に対して、市の助成金を受けている場合は、助成の対象となりません。